

## 令和 5 年 10 月 18 日 区長記者会見

### 【司会】

それでは大変お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまから令和 5 年 10 月 18 日北区長記者会見を開始いたします。

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。私は広報課長の窪田と申します。どうぞよろしく願いいたします。本日は区長のほか、政策経営部長の藤野と、企画課長の倉林が出席をしております。

それでは早速ですが、やまだ区長、よろしく願いいたします。

### 【やまだ区長】

こんにちは 10 月の記者会見を行わせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

表紙のページですが、10 月 21 日・22 日、今度の土日で行われます、飛鳥山公園で行われます、第 2 回飛鳥山 Hawai'i Festival(ハワイ フェスティバル)の昨年の写真です。フラダンスのイベントでは、かなり聖地化しておりまして、昨年は 5 万人の方々が来場されまして、今年は参加団体や出展団体も昨年よりパワーアップし、さらに盛り上げていきたいということで、今日は表紙に入れさせていただきました。よろしく願いいたします。

本日六項目に関して会見のほう行わせていただきたいと思えます。お示しの六項目についてです。

まず初めに、行政サービス、区民サービス No.1 の取り組みについてです。

一つは、ご遺族に寄り添った対応ということで、来年度に向けて、遺族、ご遺族のサポートデスクを区の方に設置をしていきます。

それに先立ちまして、ガイドブックを、作成を今年度中にいたしまして、皆様にはわかりやすいものを提示していきたいというふうにも思っております。ご家族の方が亡くなられた際に、役所での手続きが本当に多岐にわたります。およそ 60 程度の事務手続きが必要ということで、この手続きを、窓口を一本化していくことで、ご家族の方が亡くなったというだけで、やはり心理的な、本当に気持ちがふさぎ込んでいところで事務的な手続きがこれだけ多くあるということですね、やはり避けるために、窓口の一本化をやらせていただきます。

おくやみコーナーという名称で、来年度 10 月に、来年の 10 月にコーナーそのものは設置なんです、それに先駆けて、ご遺族の方々がどのような手続きを行って頂くかという 1 冊にまとめたガイドブックを今年中に作成をいたします。

二番目が DX を進めるための窓口空間を作っていく。記者の皆様、区民の方々も、区役所に入ってくださいますと、庁舎も古いので、狭いとか荷物が廊下にも出ているなっていうの感じられている方も多くいらっしゃると思うのですが、どうしても執務スペースが狭くなっていて、廊下にも書類が置いてあるような状態が散見されます。

こういったところですね、快適な窓口環境をつくっていききたいということで、まず庁舎内のデジタル化、

ペーパーレス化等を進めていくことで、紙類を減らしてスペースをしっかりと作っていくということで、今全職員に声をかけさせてもらいまして、ペーパーレス化を進めています。

そして、区民の方々が気持ちよく手続きを行っていただけるような、そんな窓口をこれからつくっていきたいと思います。ぜひご覧いただきたいなというふうに思っております。

はい、その進めていくにあたってですね、まず庁内では初めてなんですけども、DX の推進チーム、プロジェクトチームをつくりまして、全職員に声をかけまして、一切条件はなく、とにかくデジタル化、デジタル化を通じて仕事を変えていきたい、そんな思いがある方々を募ってプロジェクトチームを立ち上げました。

7 月に設置をしましてしごと連携担当室が中心となって全庁的に募集をし、現在人数がですね、24 名、22 名ですね。私もメンバーの一人として、庁内の DX 化を職員の方々の目線でどんなことができるかっていうことを意見交換をしながら、執務室、庁舎内の、区民の方々が手続きしやすい環境をみんなで作っていく、考えていくというプロジェクトチームを発足いたしました。行政 DX をこのプロジェクトチームをはじめとして、推進をしていきたいというふうに思っています。

続きまして、つながる医療・福祉 No.1 です。

高齢者の方々、障害者の方々の健康づくりについて二点取り組みを行います。一つはひきこもり支援ということで、10 月から開始をいたしております。

ひきこもり居場所の支援についてです。これまでもひきこもりに関する個別相談などを実施してきましたが、今回初めて当事者の方々の居場所事業を開始いたしました。ひきこもり支援団体と連携をいたしまして、今回ゲストを呼んで、ピアサポーターも一緒に入っていたいただきながら、交流サポートをしていきたいというふうに思っています。

現在、区内のひきこもりの方々が約 4,600 強、いらっしゃるというふうに、内閣府の調査によってこう推計をした数字なんですけど、そういった方々が活動をしやすい、その支援を強化していきたいというふうに思ってます。先だって 10 月 7 日には第 1 回目の開催をいたしまして、8 名の方々が参加をいただきました。

少しずつ、御家族の方の横のつながりもあろうかと思っておりますので、お披露目をいただきながら、ひきこもりの方々への支援をあらゆる角度で強化をしていきたいなというふうに思っています。

もう一つ 11 月 5 日になりますが、これは水辺ウォークということで、ウォーキングを毎年開催をさせていただいております。

健康づくりの事業として実施しておりますが、今年は新たな取り組みとして、11 月 12 日にホーム開幕戦を迎える日テレ・東京ヴェルディベレーザと一緒に盛り上げていただくための PR ブースなどもつくって行きます。PR ブースやフォトブース、そんなような形で、若い方々にもこの水辺ウォークに参加していただけるようなそんな取り組み。

また、他にも東洋大学の学生の皆さんにもご参加をいただきまして、今回初めてです。学生主催のブースも設置、健康相談などたくさんのイベントや企画もウォーキングとともにブースをつくっていきなというふうに思っております。11 月 5 日、日曜日の午前 9 時スタート、午後 1 時半までであります。

スタートはですね、赤羽駅の東口にお集まりをいただきまして、そこから荒川土手、青水門付近広場までゴールとしていきたいというふうに思っております。ぜひ多くの方々のご参加をお待ちしています。

続いて産業、区内産業支援で経済活性化。

これは主に渋沢栄一の新一万円札発行カウントダウンプロジェクトの取り組み、三つを挙げさせていただきます。一つは小中高生のですね、アントレプレナーシップを醸成していくということで、ワークショップ・講演会を開催いたします。

学生の起業を小学生の子供たちからも含めてですね、啓発・醸成をしていきたいということで、企画をさせていただきました。11月10日金曜日には、王子第2小学校で東京商工会議所と連携をしまして、起業体験ワークショップなども開催をされます。そして11月25日には滝野川信用金庫と共催をいたしまして、学生向けの起業家講演会を開催いたします。

ちょっと右上小さいんですが、チラシの方も上げさせていただきます。子供たちの起業家に関する支援を行っていききたいというふうに考えています。

二番目が渋沢翁命日11月11日です。この日にですね、東京商工会議所が提案をされています、命日に区内を藍でライトアップをしていこうというこのプロジェクトに北区も賛同いたしまして、区内全体を藍の色で染めていこうという取り組みをさせていただきます。区内の施設、また、区民の方々への賛同、お願いし、ぜひ藍いものを身につけたり、おうちをライトアップしていただいたり、そういった写真も募集していきたいなというふうに思っています。

渋沢の三つ目が、渋沢の精神を次世代に受け継ぐということで、渋沢ゆかりの地、北海道清水町との協定締結のご報告をさせていただきますと思います。10月6日に渋沢栄一翁でつながる東京都北区と北海道清水町との次世代をつなぐ連携及び協力に関する協定という締結であります。

渋沢翁の精神を受け継ぎ、後世につないでいく。それぞれの自治体が連携をして発信をしていく。また、渋沢翁をつながりとして、それぞれの町を、それぞれが活性化に協力をしていくという協定であります。主に三つ取り組みとしてございまして、一つはカウントダウンプロジェクトの参加をいただきながら、お互いのプロモーションを行っていくこと。また災害に関する取り組みも行っていきたいというふうに考えています。

もう一つはですね。産業の活性化。清水町の物産を東京北区で販売をする。また、区内の飲食店にも清水町の食材を使っただきながら、発信をしていく。このような取り組みを進めていきたいというふうに思っています。

続きまして、安全安心 No.1 の防災と北区強靱化の取り組みです。

一つ目は、消防団や地域の自主防災組織、町会自治会の方々に担っていただいております、自主防災組織加入の促進を、区としても強力に進めていきたいということで考えております。やはり、地域防災力の強化ということでいけば、地域の方々の自主防災組織、そして消防団の方々の取り組みを応援したいと考えています。

北区のホームページ、北区ニュースなどでPRをしていく。これまで区のホームページの中で消防団募集のページはありませんでした。現在、ホームページに既にアップをさせていただきますが、地域の防災力の担い手を区としても募集をして、それぞれの役割を担っていただきながら、地域全体で安全安心のまちづくりを進めていきたいというふうに考えています。

また、ここには掲載しておりませんが、先程申し上げました、さまざまな協定。区内事業者や各種団体の方々、そういった方々と防災協定も組ませていただいております。それぞれの形での防災協定なのですが、そこに担い手として企業の方々にも消防団や自主防災組織にも入っていただけるような、そんなアプローチも行っていけたらなというふうに思っています。

二つ目が、区内 5 か所の病院で行います、緊急医療救護所設置の運営訓練であります。

北区では、おおむね震度 6 弱以上の地震が発生した場合に、区内 5 か所の病院前で緊急医療救護所を設置してまいります。その医療救護所活動を行う、運営訓練を実施をしていく。区主催で行っていききたいというふうに思います。当日は北区医師会をはじめ、北歯科医師会、滝野川歯科医師会、北区薬剤師会、柔道整復師会北区支部、病院等、多くの医療関係者の方々の協力をいただきまして、災対医療衛生部の職員とともに、実践的な訓練を行っていきます。実際に震度 6 弱以上の地震が起きた場合に、どのような連携を図っていくのかという実地訓練であります。

続きまして、まちづくり 100 年先を見据えたまちづくりであります。

一つ目は、まちづくりに関する会議をオンラインで公開をしていきまして、開かれた区政を推進していきたいと考えています。

10 月 26 日、第 1 回目の王子、これは王子駅まちづくり再開発のですね、会議体であります、第 1 回目の王子共創会議。また 10 月 30 日の第 2 回目王子駅周辺エリアプラットフォームの準備会。この二つの会議をですね、北区で初めて WEB で公開をしてまいります。

当日、傍聴ができない方々も WEB でご覧いただけるような、ごらんをいただきまして、広く王子駅周辺のまちづくりがどのように進められているかを、区民の方々に知っていただきたいという思いで公開をさせていただきます。

二点目は、赤羽台周辺地区におけるコミュニティの活性化支援をしていく事業であります。

UR 団地、東洋大学、地域の団体と連携をいたしまして、コミュニティの活性化に取り組んでまいります。11 月 5 日、ちょっと左下ちっちゃいんですが、11 月 5 日、日曜日にはヌーヴェル赤羽台を中心にいたしまして、ボンボンフェスタ赤羽台というイベントを開催いたします。

住民同士の交流の場をつくること。また当日イベントでは、デザインマンホールに関するトークショーを行ったり、また北区アーティストバンクと連携をした演奏やマルシェの開催なども設置いたしまして、地域の皆さんと盛り上がっていく、そんなイベントを行ってまいります。ぜひ多くの方々にご参加いただければなというふうに思います。

最後に、文化・芸術・スポーツを区民目線で活性化であります。一つ目は冒頭でご紹介もいたしました、10 月 21 日・22 日に開催をいたします、飛鳥山 Hawai'i Festival(ハワイ フェスティバル)であります。渋沢栄一翁が、ハワイのカラカウア王を飛鳥山に招待をしまして、招いて、交流を図ったというエピソードをもとにした、今回、昨年に続くイベントであります。

北区観光協会が連携をしながら行っていきます。昨年は約 2 日間で 5 万人以上が来場されました。今年は 80 のフラチームがエントリーをされているというふうに聞いています。キッチンカーやハワイの関連商品販売など、飛鳥山公園全体がハワイの雰囲気でも包み込まれて盛り上がるイベントであります。

ぜひ多くの区民の方々にもご覧いただけたらなというふうに思います。

二つ目が先ほども少し出ましたが、デザインマンホールのお披露目についてです。12月10日に開催をされます、日テレ・東京ヴェルディベレーザの区民観戦デー、北区民観戦デーです。ここで西が丘地区に設置をいたします、デザインマンホールのお披露目を行いたいと思います。

また、11月1日には、赤羽スポーツの森公園競技場でベレーザの練習見学会と、WEリーグ新シーズン開幕壮行会を行いますので、ぜひ詳細は改めてプレスをさせていただきますが、みなさまご覧いただきたい、参加いただけたらなと思います。よろしく願いいたします。

10月・11月は、様々なイベントが各地域で開催をされます。多くの区民の方々がそれぞれご興味を持っていただけるイベントに参加をしながら地域の活性化、そしてさまざまな団体と区民の方々がつながっていただける、そんな発信を区としても応援をしていきたいというふうに思います。以上です。

#### 【司会】

ありがとうございました。それでは、これより質疑応答に移らせていただきます。質問の際には挙手などで、職員が持参いたしますマイクを使って御発言ください。ご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

#### 【やまだ区長】

はいどうぞ。

#### 【質問者 建設工業新聞】

すみません。あの建設工業新聞のサカモトと申します。ちょっと初めてきたので、不勉強で大変申し訳ないんですけども、王子共創会議に関しまして、ちょっともう少し具体的に伺えたらと思うんですけども、ホームページとかで拝見してる限り、この王子駅周辺のまちづくりに関する合意形成を図っていくというふうに書いていただいているかと思うんですけども、具体的にどういった方を参加していただくのかという話がまず一点と、いつ頃までにどういう合意形成を図ってどういう計画に反映していくのかという、今後の見通しに関して伺えたらと思います。お願いします。

#### 【やまだ区長】

はい。まず参加者につきましては、有識者、大学の先生が中心に、座長になっていただきまして、地域の方々、また町会、自治会、商店街、地域のエリアの方々含めて関係者の方々にお集まりをいただき、地域のまちづくりに関しての意見交換、方向性、そういったものを協議していく場と考えています。

まとめといたしましては、今年度末、会議そのものが1回目で2回目が、ごめんなさいちょっと1回。

#### 【藤野政策経営部長】

王子駅周辺のまちづくりガイドラインというのを取りまとめられたんです。

今度それに基づいて具体的なまちづくりをどうやって実現していくかっていうのを、この共創会議で話し合っ決めていくことになるんですけど、ここでは特に何か成果物をつくるっていうところまでまだ具

体的に決まっているわけではなくて、ガイドラインでいろいろとあげているまちづくり事業を、どのように進めていくかということを経験者(学識経験者)を初め、地元の関係団体のメンバーとともに話し合っている、方向性を見出していき、そんなような会議を今実施しているところです。

【質問者 建設工業新聞】

わかりました。ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございます。他に質問ある方はいらっしゃいますでしょうか。

【やまだ区長】

はいどうぞ。

【質問者 読売新聞】

読売新聞のナカムラと申します。よろしくお願いいたします。新一万円札発行のカウントダウンプロジェクトに関しまして、具体的に行うことを教えていただいたかと思うんですが、まずプロジェクト全体についての区長の思いといいますか、こういったふうに北区をしていきたいですとか、具体的な思いを伺えますでしょうか。

【やまだ区長】

はい。これまでも記者会見も含めてですね、新一万円札発行カウントダウンプロジェクトに関する思いというのはお伝えをさせていただいてるんですが、やはり北区ゆかりの偉人渋沢翁が、この地で暮らしながら、晩年、亡くなるまでさまざまな地域貢献や企業の会社を興す支援をされてきた。

そんな思いをですね。やはり私たちゆかりの地である北区が、そして関連する自治体と連携をしながら、その精神を受け継いで発信をしていくこと。またその精神に基づいた、その取り組みをですね、つないでいきたいという思いが大きく一つ。そして合わせて、こういった渋沢翁の思いをつなぎながら、北区が、東京都北区この場所にあって、こういう街なんだということをですね、この新一万円札発行の機会に、全国に、また世界に向けて発信をして、北区を多くの方々に知っていただき、訪れていただきたいという、この大きく二つの思いがあります。

【質問者 読売新聞】

はいありがとうございます。

【司会】

ありがとうございます、お願いいたします。

【質問者 毎日新聞】

毎日新聞のナンモです。よろしくお願いいたします。今のところで、ライトアップで染めるということなんですが、さっきおっしゃっていた藍いものを身に着けたり、写真をアップしてもらっているところ、ちょっともうちょっと具体的に教えていただいてもよろしいですか。

**【やまだ区長】**

はい、これからきちっとした呼びかけになりますが、商工会議所の呼びかけに関連自治体が賛同して、共同して藍色のライトアップを行っていく。これはですね、北区としても、区民の方々、区内の事業者の方々にホームページや SNS、さまざまな媒体を活用させていただきまして発信をし、もちろん区の施設についてもできるものは藍のライトアップをしていくこと。詳細はこれから出させていただきますが、やはり皆さん藍くライトアップされたり、藍でこう洋服を着ていただいたり、そういったものを写真に撮って、ぜひこうお知らせをいただきたい。区ですね、そういった SNS にいただいたものをアップしていきたいなっているのを今企画としては考えています。詳細についてはもう少しお時間をいただきますが、そういった形で北区全体で渋沢翁の命日をみんなで共有をしていきたいというふうに考えています。

**【質問者 毎日新聞】**

リリースが出るというのですか。

**【やまだ区長】**

はい、10月の下旬予定です。

**【質問者 毎日新聞】**

ありがとうございます。

**【司会】**

ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。お願いいたします。

**【質問者 都政新報社】**

都政新報社のドイと申します。赤羽台のコミュニティの活性化支援事業なんですけど、これは区内のなぜ赤羽台なのかっていう理由とといいますか、背景っていうのを伺えればと思います。

**【やまだ区長】**

はい。赤羽台の UR と住まいの地域の町会自治会の方々と、イベントをですね、コミュニティ活性化の事業をさまざまな防災訓練ですとか、そういったものも含めて行われていまして、そのコミュニティ活性化の事業の一つとして、UR・東洋大学・地域の団体の方々と企画された内容であります。

今、ヌーヴェル赤羽台、団地の建てかえですとか、区の事業としても再開発を行っておりますが、そういったことを連携をしながら行っていく上で、イベントも通じて、それぞれの団体との地域をつなげていく。そんな取り組みとして実施をされます。

**【質問者 都政新報社】**

ありがとうございます。例えば、区内の中で赤羽台が例えば高齢化率が高いですとか、そういった背景とかは。

**【藤野政策経営部長】**

今おっしゃられたように、やはり赤羽台・桐ヶ丘地区は区内の中でも高齢化率が非常に高い地域になります。その中でも赤羽台は UR が団地の建てかえを進めていることで、これまで住んでいた方と新しく入ってきた方、新旧の住民が入り交じっているような状況もあることから、そこでそういった住民同士の交流を新たに生み出すというような、そういう意味合いも込めて、今回の事業は計画をしているということです。

**【司会】**

ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

**【司会】**

よろしいでしょうか。はいありがとうございます。それでは以上をもちまして、本日の記者会見を終了させていただきます。ありがとうございました。

**【やまだ区長】**

ありがとうございました。